

## 木村賞第四回授賞報告 (2015年度)

遠藤 薫\*

横断型基幹科学技術研究団体連合（以下横幹連合）は、2015年12月5、6日に開催された第6回横幹連合コンファレンスでの発表論文に対して、木村賞の選考を行い、1件の論文に第四回木村賞を授賞することとした。

本年度の具体的な選考手順を以下に示す（木村賞運営内規に基づく）。

1. 審査委員会の設置（2015年10月26日理事会）  
審査委員会の構成：遠藤薫（審査委員長，学術管掌副会長）ほか委員9名
2. コンファレンス予稿原稿に基づく事前一次審査（2015年11月2日～11月10日）：審査対象論文99件より24件の一次審査通過論文を選考
3. 事前二次審査（2015年11月16日～11月24日）：一次審査通過論文24件より6件の二次審査通過論文を選考
4. 二次審査選考論文のコンファレンスにおける発表時審査（2015年12月5、6日）：6件の候補論文の評点順位付け
5. 審査委員会で1件の論文を選考し理事会に推薦（2016年1月28日）
6. 理事会において平成27年度木村賞受賞者を選考（2016年2月29日）

2015年度の木村賞受賞者は以下の通りである。なお、授賞式は2016年4月27日に開催される横幹連合総会において行う予定である。また、総会において受賞者からは受賞論文について発表して頂く。

### 2015年度木村賞受賞者、対象論文および選考理由

受賞者：佐藤彰洋（京都大学）

対象論文：佐藤彰洋・澤井秀文・榎峠弘樹・Jang Tae-Seok「経済社会データおよび環境データを用いた空間評価指標の大規模計算：地域メッシュ統計の利活用」



選考理由：

本論文は、「横幹性」の面では、都市の自然災害に対する複合的なリスクの評価について、自然災害が発生する規模と頻度のみではなく、経済社会システムがどのように自然災害の被害を受けるかが重要であるとの観点から、「自然災害の発生頻度（ハザード）と社会経済システムに蓄積されている社会経済的価値（暴露値）および対策の程度（脆弱性）の積により見積もる方法が一般的」であることを踏まえ、「津波ハザードの地域メッシュ統計データに経済社会システムに蓄積されている経済社会的価値として4種類の地域メッシュ統計を掛け合わせるにより、物理的エクスポージャーの地域メッシュ統計を作成し、日本国内の経済社会的活動に対する津波災害の物理的エクスポージャーを推計」している。これは、横幹連合の scope にマッチすると同時に、第6回横幹連合コンファレンスのテーマである「サステイナブル・イノベーションのための智」にふさわしい研究といえる。

また「有用性」の面では、本論文で日本国内約38万メッシュを対象とした1km四方ごとの津波災害による物理的エクスポージャーの算出を行うことができ、自然災害によるリスクへの対応に大きく貢献すると期待される。

さらに「将来性」の面では、今後、社会経済データや災害データの充ち、世界メッシュデータの利用、算出されたリスクマップの現実的利用などにより、その成果が横幹連合の大きな方向性と共振しつつ具体的な場面で成果を上げる、さらに大きな発展が期待できる。

\*木村賞審査委員会委員長（横幹連合副会長）・学習院大学法学部